



## 〈 解 説 〉

### ビワ

(バラ科ビワ属の種、学名： *Eriobotrya japonica* Lendley、中国名：枇杷)

この種はバラやリンゴと同じバラ科の植物で、大きくなると樹高10m、胸高直径30cmにもなる常緑高木です。花の少ない冬の時期に目立たない白い花を着け、果物の少ない初夏にオレンジ色の果実が熟します。

この種の仲間は、東アジアに10種の野生種が知られていますが、日本では化石も発見されておらず、自生していなかったようです。原産地は四川省を含む中国中南部一帯で、日本には何度もいろいろな品種が渡来したようです。現在、野生化した種が本州西部から、四国、九州の石灰岩地帯の森林に分布しています。それらもちろん果実を着けますが、種子が大きく、果皮が薄く、渋みが強いので食用には向きません。

和名のビワは中国での「枇杷」の音読みで、革質で長さ30cmにもなる大型の葉の形が楽器の「琵琶」に似ていることに由来すると言われています。最近では、この葉が五十肩や筋肉痛の治療に効果があるとして、民間薬として使われます。

(農学部教授 福嶋 司)